DEW
stream 2013

Planning, Design, and Consulting
SHIMIZU CORPORATION

vol.73

GARDENIER KINUTA WEST | 02 - 05
SOGOKAN 110 TOWER | 06 - 07
TACHIKAWA CITY KODOMO MIRAI CENTER | 08 - 09
SEICHO-NO-IE "OFFICE IN THE FOREST" | 10 - 13
SHIN-MEGURO TOKYU BUILDING | 14 - 15
Q'd BUILDING | 16 - 17
KANDA SUDACHOU i MARK BUILDING | 18
TAKARACHO SANSEI BUILDING | 19
ISETAN SHINJUKU STORE FRONT ENTRANCE REMODEL | 20 - 21
TOKYO SQUARE GARDEN | 22
TOKYO TAMA SEIKA Gora no Sato | 23
NAGOYA ELECTRICAL EDUCATIONAL FOUNDATION JUNNA MEMORIAL HALL | 24 - 25
WASEDA UNIVERSITY KARUIZAWA SEMINAR HOUSE | 26 - 27
KYOBASHI KODOMOEN | 28 - 29
SALESIAN SISTERS ST.JOSEPH MONASTERY | 30 - 31
SHIMIZU INSTITUTE OF TECHNOLOGY MULTIPURPOSE TESTING LABOLATORY / MATERIALS LABOLATORY | 32 - 33
LIVEDO CORPORATION EHIME NIHAMA FACTORY | 34 - 35
TOKYO ELECTRON Technology Center Tsukuba | 36 - 37
Case | 38
PARK TOWER SHIBAKOEN | 39
THE RECONSTRUCTION OF SHIMIZU YOUNOSUKE HOUSE | 40
Z TEMPLE PRIVATE LIBRARY | 41
NISSEN OFFICE | 42
POPPO MACHIDA | 43
GTU SIMA IZZAR MIXED USE PROJECT | 44 - 45
KAMOTSURU NIHONBASHI BUILDING | 46
FUNABASHI GENERAL HOSPITAL | 47
EKIMISE | 48
CG VISUALIZATION | 49
GREEN MOUND, ARCH SHELTER / FRAME SHELTER | 50 - 51
COMPETITION | 52 - 53
stream DEW WORKS | 54 - 55
DATA OF WORKS - stream DEW MEMBER | 56 - 58

Planning, Design, and Consulting
by SHIMIZU CORPORATION + Field Four Design Office + PD SYSTEM

DEW
stream 2013

特集：近作プロジェクト

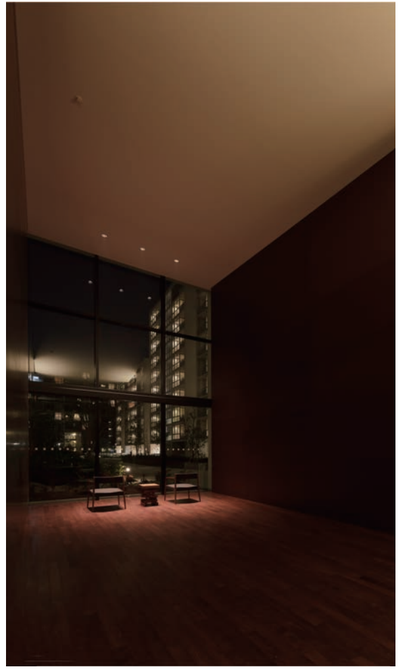
vol.73

ガーデニエール砧 WEST 02 - 05
相互館110タワー 06 - 07
立川市子ども未来センター 08 - 09
生長の家 "森の中のオフィス" 10 - 13
新目黒東急ビル 14 - 15
キュードビル 16 - 17
神田須田町アイマークビル 18
宝町三清ビル 19
伊勢丹本店本館正面玄関改修 20 - 21
東京スクエアガーデン 22
東京多摩青果 強羅の郷 23
名古屋電気学園 淳和記念館 24 - 25
早稲田大学軽井沢セミナーハウス 26 - 27
中央区立京橋こども園 28 - 29
カトリック扶助者聖母会 調布ヨセフ修道院 30 - 31
清水建設株式会社 技術研究所 多目的実験棟/材料実験棟 32 - 33
リブドゥコーポレーション愛媛新居浜工場 34 - 35
東京エレクトロン テクノロジーセンターつくば 36 - 37
Case 38
パークタワー芝公園 39
旧清水邸（清水揚之助邸）書院復元 40
Z寺 経蔵 41
ニッセン本社 42
ぽっぽ町田活性化プロジェクト 43
ジャカルタ シマトバン 複合事務所ビル 44 - 45
カモツル日本橋ビル 46
船橋総合病院 47
エキミセ（東武浅草ビル改修） 48
パース表現の探求 49
グリーンマウンド，アーチ・シェルター/フレーム・シェルター 50 - 51
コンペティション 52 - 53
stream DEWの活動 54 - 55
作品データ・stream DEW 委員一覧 56 - 58









GARDENIER KINUTA WEST
ガーデニエール砧 WEST

地域と共にありつづけること

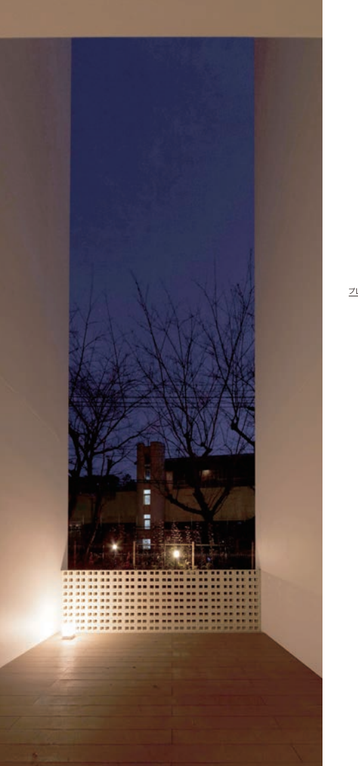


計画地は清水建設にとって想い入れの深い場所である。昭和20年の終戦翌年に引揚げ・被災社員のために木造社宅が建てられて依頼、60年近くに渡り多くの社員がここで暮らし、地域と係わりを持ってきた。地元から親しみを込めて「清水村」と呼ばれてきた場所を、売却することなく、自社開発・自社事業とすることで、これからも地域と共に在り続けることを選択した。

今回竣工したWESTは、商業施設を併せ持つ2008年竣工のⅠ期270戸に続く、371戸の賃貸事業である。企業としてこの場所を持ち続けることの重みを、地域と新たに住まう居住者の双方に対し、どのような新しい価値に置き換えることが出来るかが、設計プロセスの中で一貫したテーマであった。

地域の記憶を継承する既存樹木は全て残し、敷地の多くを地域に解放することで、地域と居住者の接点を設け、また居住者同士の繋がりを誘発する仕組みを建築に与えることで、数十年後の将来も活力のある街であり続けることを目指している。

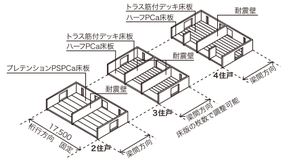
2013年グッドデザイン賞　　井川　博英
SDA賞2013入選



時代の多様性に応える住棟構成

建築の最大の特徴はモデュール化された千鳥掛け形式の住棟構成である。
居住者のコミュニティを誘発し、通風・採光に優れ、多様な住まい方を可能としている。作り手不足の時代を見据えた工業化、様々な敷地形状への展開も可能な形状である。

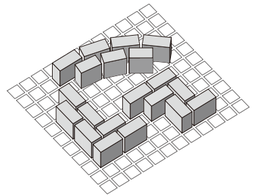
井川　博英

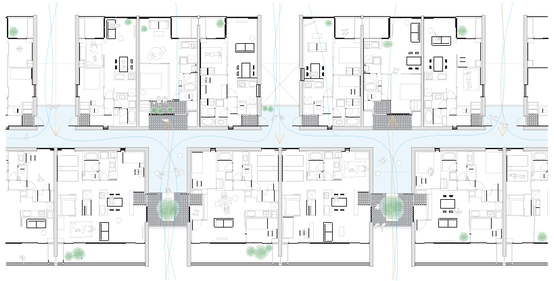


モデュール化による合理性・汎用性の確保

専有部の主開口面に耐震要素の全くない、スクエアな居住空間を提供する架構形式である。免震壁構造により、一見複雑な形態をEXP-Jなしで実現した。
構造要素と共に、建築・設備要素も含めたトータルなモデュール化により、合理性と汎用性の確保された建築として成立させた。

高橋　啓



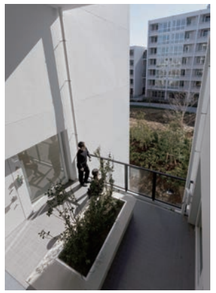


ecoLCP住宅の取組

この建物は、環境機能と災害時の生活維持機能を有効に連動させるecoLCP住宅(LifeContinuityPlan)である。
一括受電、デマンドレスポンス、自然エネルギーの活用等、各種機能をシミズスマートBEMSがトータル的にマネジメントする、これからの集合住宅機能のモデルケースとして提案した。

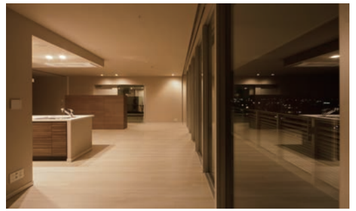
金沢　俊邦















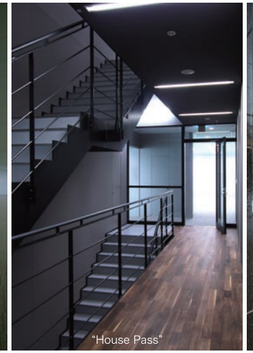


地域を繋ぐ、人を繋ぐプロセス

設計者には竣工は一つの大きな終着点であるが、建物とその利用者には、始まりである。
ここでは、建物竣工後の通常のメインテナンス的な係わりを大きく超えた、居住者同士および地域とのコミュニティ醸成のプロセスに、積極的に関与している。
上の写真は、設計者が主体的に運営し、清水建設東京木工場と共催する、ものづくり教室の風景である。他にも植栽会社の選定にあたっては、竣工後のイベントも含めたプロポーザルを募るなど、これまでの設計者の枠組みを超えた取り組みを継続させていく予定である。



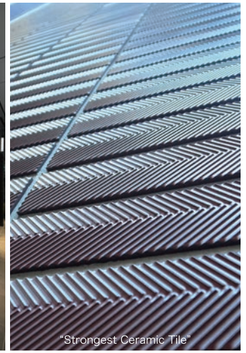
Typical Floor



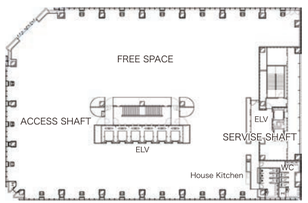
Bombay black wood flooring



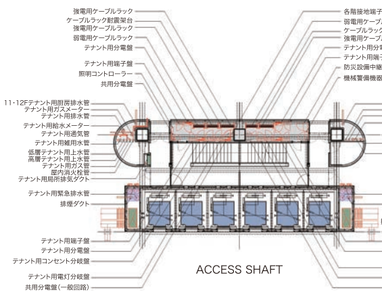
Preserved original bronze panel



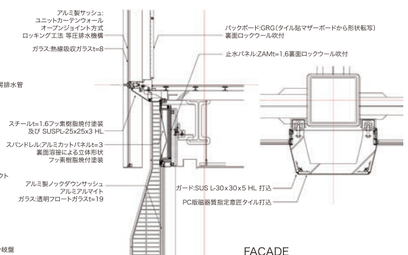
Water absorption 0.09%
Bending strength 62.35N/mm^2



PLAN



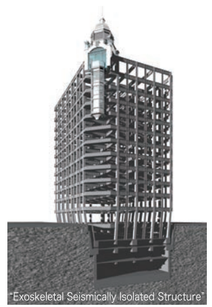
ACCESS SHAFT



FACADE



1921 DAI-ICHI SOGOKAN

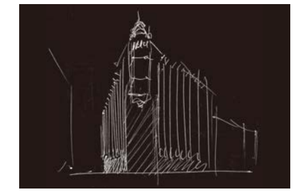


2009 Structural Sketch



SOGOKAN 110 TOWER
相互館110タワー

3代目の相互館



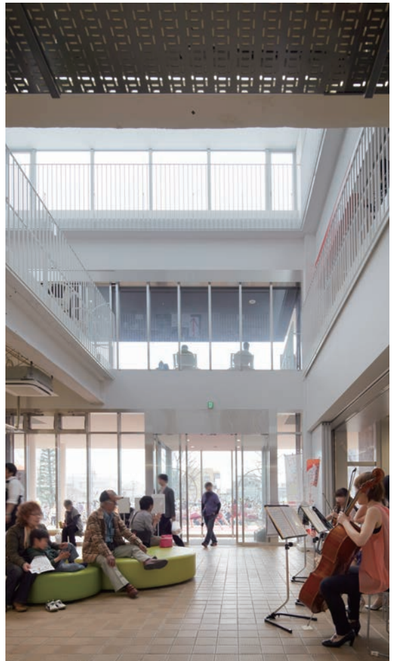
2005 Sketch

京橋のこの地にあった第一生命の本社建築、第一相互館(設計:辰野金吾、大正十年竣工)の建設には、5年10ヶ月が費やされた。第一次世界大戦の勃発によるハイパーインフレに見舞われたからである。それでも当時の建設者達は、建物の品質を落とさなかった。堅牢に煉瓦を積み上げた執念のものづくりは2年後の関東大震災や戦禍をくぐり抜ける源泉となり、日本初の足元商業を含む複合用途構成は、高度成長時代に至るまで人々に親しまれるランドマークの活力となった。

相互館110タワーにおける第一相互館の特徴的な尖塔の再現は、一見すると企業史や都市史の継承と受け止められるかもしれない。
しかし、歴史は、そこに何を見出すかによって現代的な意味をもつ。企画設計から竣工まで8年にわたるプロセスによって追究した、外骨格型免震構造、最小限度のシャフトで成立する用途フリーの空間形式、超高強度低吸水率タイルによる壁体といった相互館110タワーの特性は、未来を生き抜く建築の強靭さ(レジリエンス)である。

坂井　和秀 + 大田　道広













TACHIKAWA CITY KODOMO MIRAI CENTER
立川市子ども未来センター

新たなる建設を目指して



立川市旧庁舎施設を利用した、官民一体となった地域支援センターならびに賑わい創出施設をつくるプロジェクトであった。

建設することで完成するのではなく、その企画、運営をグループ企業のひとつとして参加することによる、新たな建設のかたちづくりに取り組んだ。

このプロジェクトにおける「プロセス」とは、昭和43年に建築された旧庁舎の経てきた時間軸をも包括する「解体のデザイン」と、studio-Lとの協働による、市民を巻き込んだ「活かし続けるためのデザイン」に特徴をもつ。

時代を超え、ひとを繋いでいく空間として、市民と共に成長していくことを期待する。

牧住　敏幸
及川　直哉









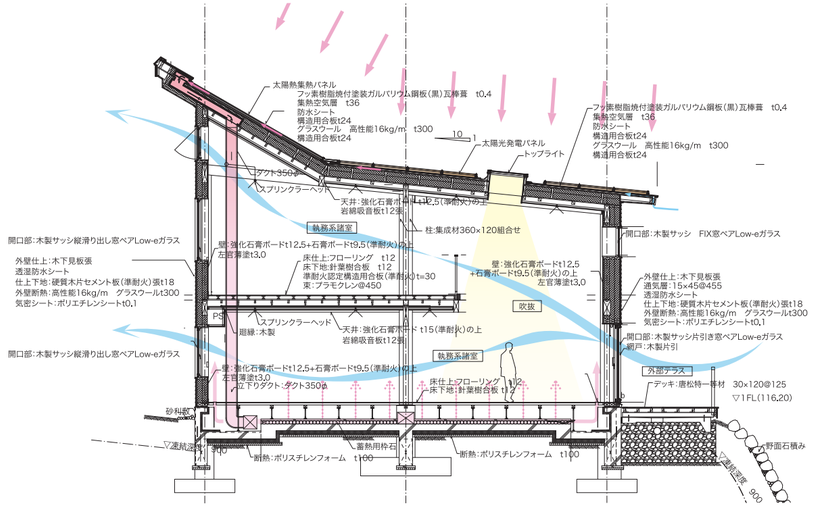
SEICHO-NO-IE
“OFFICE IN THE FOREST”
生長の家 “森の中のオフィス”

自然との共生を図る建築を目指して



八ヶ岳の南麓のなだらかな斜面に位置し、カラマツやシラカバなど豊かな自然の中に建つオフィスである。
地元山梨県産のカラマツを主体とした大規模木造建築で、内外装共に木や珪藻土など自然素材を使用、執務室・食堂には自然を満喫できるウッドデッキを設けるなど自然環境との一体化を図った。
地域特性を生かした自然エネルギーを最大限に活用し日本初のゼロエネルギービルを実現、将来的にはエネルギー自給を目指す。
「人間が自然の仲間入りをさせてもらう」という考えのもと、地産地消による環境保全と地域貢献、更に自然林の再生と生態系にも配慮している。

青木　裕一

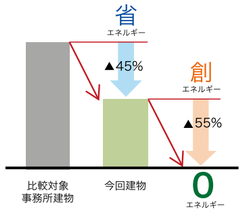




組み柱に大梁を挟み込む木造架構



床下の地産岩石を砕いた蓄熱材



環境に配慮し、耐震性に優れた木造建築

組み柱に大梁を挟みこむ架構形式により、柱のボリュームを低減、柱と大梁の接合部も簡素化し、軽快な構造架構を実現した。更に実大実験により耐力を検証した、高耐力筋かいを採用することで耐震性能を向上させた。(建築基準法の1.25倍)

山本　康弘

自然エネルギーを生かした「省エネルギー」

建物は敷地の高低差を利用したスキップフロアとし、自然通風、自然採光を最大限利用可能なプランとている。高断熱仕様、太陽熱を利用した暖房システム、トップライトとLED照明などにより省エネルギー化を図った。

池内　匠

自然エネルギーを生かした「創エネルギー」

地域特性である高い日照率を生かし、太陽光発電パネルを屋根全面に設置、豊富な木質バイオマスを利用した木質バイオマスガス化コージェネレーションにより発電し、自然エネルギーと大容量リチウムイオン蓄電池を制御するマイクログリッドシステムによりZEBを実現している。

寺島　大

木質バイオマスを利用したエネルギーシステム

標高1,320mに位置し、−15℃になるこの地で、太陽熱集熱により室内を暖めながら、木質バイオマスガス化コジェネレーションの排熱と木質ペレットボイラによる温水により給湯と補助暖房を行っている。更に余剰分はロードヒーティングにも使用している。

本間　康雄





ギャラリー棟内部



オフィス棟内部

メディアセンター

森の中のオフィス近くの別荘地に建つ情報発信基地で、オフィス棟とアートスタジオ棟の２棟で構成している。周囲の自然に溶け込みながら自然を満喫できるように、建物配置・形状、窓の配置などを工夫した。

また、メディアセンター単独でZEBになるように、自然エネルギーを積極的に活用している。(太陽光発電、太陽熱集熱、薪ストーブ、高断熱仕様)

池内　匠・石川　美紗子





SHIN-MEGURO TOKYU BUILDING
新目黒東急ビル

緑の丘のア・シンメトリーなオフィス

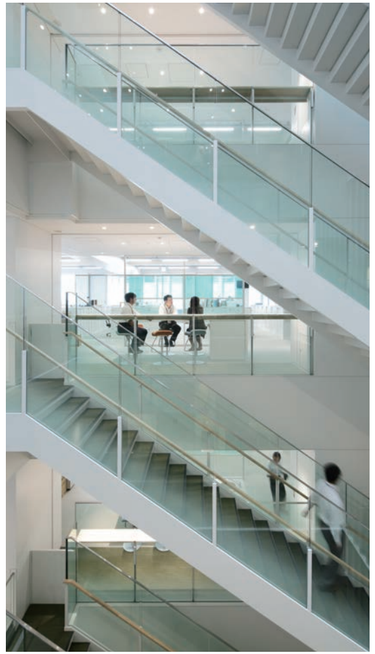


目黒駅のある高台に位置するテナントオフィスビル。
東急不動産のオフィスビル事業の新たなコンセプト「building smiles　はたらく人を笑顔に」の旗艦ビル。
敷地は形状が複雑で、かつ高低差が大きく、日影規制もあり、それらの条件をいかにテナントビルの付加価値に変換し、競争力を与えていくかをテーマとした。
眺望のよい西側に開く段丘状のシルエット（断面構成）として整形で最大のワークスペースを確保。段丘の屋上を「屋外のワークスペース」として設えた。
ア・シンメトリー（非対称）なファサードは、工場でユニット化したカーテンウォールで構成しているが、眺望・採光・自然換気・設備換気といった機能を陰影にあらわし、ヒューマンスケールと品格をもたせた。
インテリアは、石・木といった素材を「積む」「グラデーショナル」「透ける」「映り込む」といったキーワードを展開し、ワーカーの日常に笑顔を届けたいという想いでデザインした。

今井　宏 + 上田　昌弘



ブラインド無で安定した昼光をワークスペースに届ける



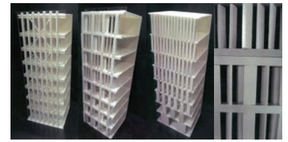
明るいエコボイドはワーカーが集うリフレッシュ空間



環境オフィスのファサードが秩序とリズムを街並みにあらわす（アウトフレーム+エコフィン+換気併用消防進入口）

Q'd BUILDING
キュードビル

東京にフィットする　ミッドサイズの環境オフィス



ブラインドレス・オフィス
中小ビルが密集する茅場町の街ナカに、快適な働く空間と省エネ環境がフィットするオフィスの実現を目指した。東京では日射負荷の低減（外部で防ぐこと）が空調省エネの大きなカギとなること、また、眺望を生かしたはずのガラスのビルが、向いのビルとのお見合いと日射遮蔽から、ブラインドがいつも降ろされてしまうミスマッチを何とか克服したいと考えた。
吹抜を介した奥行の適度なL字型ワークスペースは、年間を通して日射が入らずに、昼光を最大利用できるファサードを考えた。アウトフレームの構造にエコフィンと換気窓（消防進入口）を組み合わせて日射遮蔽をするが、その内外部からの眺望、フィンの陰影の表情を3Dプリンターでのモックアップや、CGによって検討を重ねて実現した。熱負荷が少ないことは、居住域の床吹出し空調でペリメーターをカバーすることも可能としている。低階高だが直天井として、ゆとりと明るさを感じるとともに、質実剛健で、すっきりしたワークスペースの両立を心掛けた。
このオフィスを、このような街につくる環境オフィスのプロトタイプになるものとして提案したい。

河本　洋一＋今井　宏

KANDA SUDACHOU i MARK BUILDING
神田須田町アイマークビル

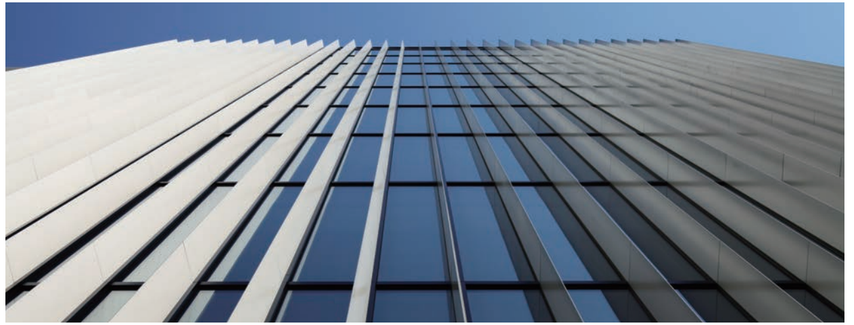
凛とした建築



ＪＲ神田・秋葉原両駅の中程に立地する靖国通りに面したテナントオフィスビルである。
新幹線・山手線・中央線・靖国通りなど多くの人が目にとめる、通過交通の結節点に位置している。一方で周辺は様々な規模・表情のビルが立並ぶ雑多ともいえる街並みが連続する。そのような環境の中で「凛とした建築」を模索した。
外装を特徴づける格子はＰＣの庇・縦フィンによって構成されている。格子のすぐ内側は全面ガラスカーテンウォールとフルハイト引き違いサッシュを組み合わせた２重のガラススクリーンとなっており、鉄道・交通騒音を遮蔽しつつ、内外から陰影と奥行を感じる計画としている。
ＰＣによる160mm幅、奥行き350mmの縦横の格子は、ガラスへ陰影と反射をもたらすことで、奥深い移ろいを感じられるように原寸模型やＣＧでスタディーを重ねて決定した。接合部はシンプルでありながら、地震時の挙動検証や将来にわたって美観を保つような工夫がされている。

小林　央和









TAKARACHO SANSEI BUILDING
宝町三清ビル

竹河岸の記憶



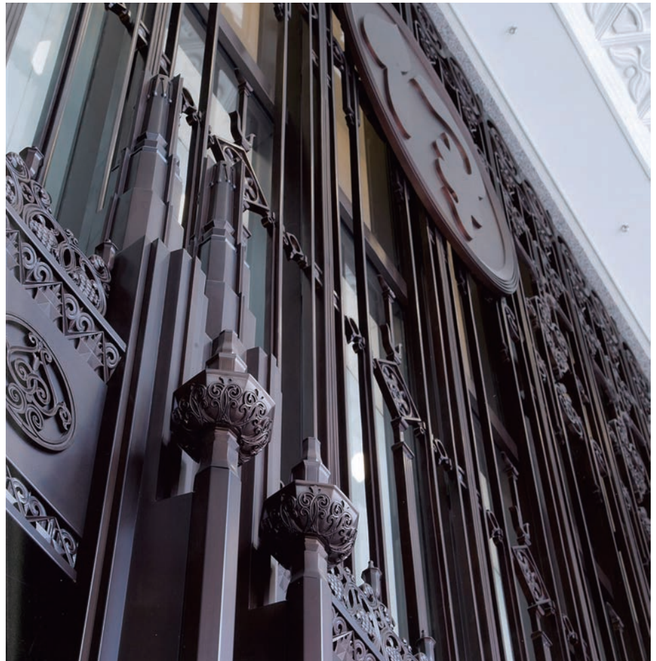
「江戸名所百景　京橋竹がし」
歌川広重
（東京都中央区立京橋図書館所蔵）

歌川広重によって描かれた「江戸名所百景　京橋竹がし」にあるように、江戸時代、京橋周辺は竹が居並ぶ竹の中心市場であった。
竹河岸という土地の持つ記憶の継承、垂直方向を強調するデザイン、外壁の熱負荷を減らすという３つの目的を満たすために、ファサードに用いたのは先端を薄く見せるために見付けを5mmにまでそぎ落としたアルミのフィンである。

フィンの奥行とピッチはファサードの意匠上の検討とともに日射による室内への影響を検証も行い、奥行300mm、ピッチ600mmのフィンにより西面の直射光を最も不利な夏至16時で半減させる効果があることを確認し決定するプロセスを経た。

ファサードのもつ縦線によるシャープさをインテリアにも展開し、建物全体の統一感を図っている。

松島　研











鋳型



昭和8年竣工時

ISETAN SHINJUKU STORE FRONT ENTRANCE REMODEL

伊勢丹本店本館正面玄関改修

伝統の継承



伊勢丹本店は昭和8年第一期建物の竣工から現在に至るまで増築を繰り返してきた。外装については第一期建物のデザインを継承し、増殖してきた。

今回の正面玄関の改修では初期のデザインを尊重する精神に基づき、当時の資料を参考に2層吹き抜け、アールデコ様式を復元している。天井のレリーフは既存の部分から型取り製作した。

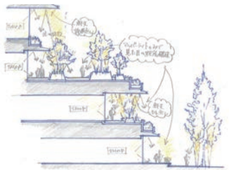
施主の担当者と共に、本物の素材を選択し、伝統的な「鋳物」製法で華麗なデザインを追求した。各所の装飾では商売繁盛等が祈願された葡萄唐草、孔雀、蛇などのモチーフが特徴である。

「伝統」の継承と、時代と共に「革新」していく伊勢丹の姿勢は今後も変わることなく、それこそが確かな発展と広い購買客に愛される理由の一つであると感じる。

小野　公義

TOKYO SQUARE GARDEN
東京スクエアガーデン

京橋の丘

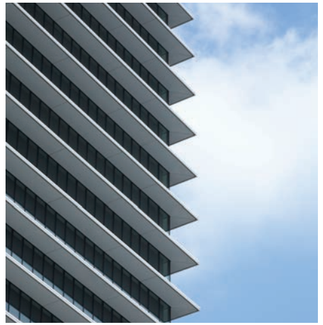


当街区は江戸時代に畳職人が軒を連ねた職人街・畳町であり、本計画では、廃道されるその目抜き通り「畳町通り」を計画の強い背骨とし、歩行者空間として再生した。

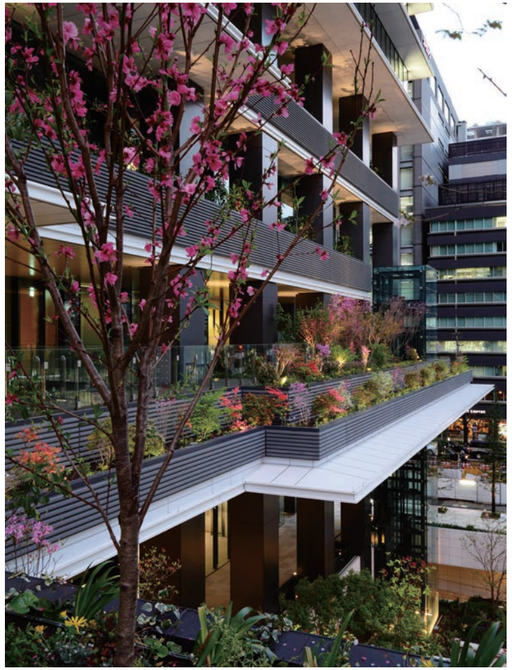
外装は「庇」という日本古来の手法で全体を統一し、高層部のオフィス階は約1.8mのPCの庇を天井面の連続として設けることで日射を遮りつつ空間の広がりと眺望を確保した。様々な用途の入る低層部は庇をランダムに積層させ、その中に通りや大空間、緑化空間を挿入することで高層階とは対比的に変化や動きのある構成とし、人の動きと緑と建築を立体的に組み合わせた空間を表現した。

また、地下広場から地上3階まで緑が立体的に連続する「京橋の丘」を計画し、緑の中に人々が憩える開かれた空間を組み合わせた。庇の連続に垣間見える緑化空間が庇と共に、この建物のアイデンティティをつくっている。
昼は建物のボリュームを感じさせない役割を荷っている明色の軒天が、夜にはこの緑化空間の木の葉が、色からかたちとして投影される。

嶋田　将吾







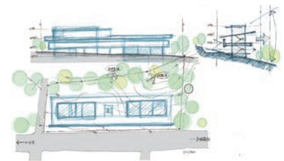






TOKYO TAMA SEIKA Gora no Sato
東京多摩青果 強羅の郷

心泰く身寧きは是れ帰する処



箱根・強羅の急斜面に建つ宿泊室５室の小規模な保養所である。

早雲山を背にした計画地は、県道に沿って大文字焼を正面に望む広い間口、短いながらも奥行き方向への急激な下り勾配、温泉引込み権保有という好条件を備えていた。

アプローチ側には伸びやかで力強い印象とプライバシーの確保を、谷側には雄大な景色と風を取り込むデザインを模索した。現地には櫓を組み各階レベルからの眺望を確認し、強羅の日帰り温泉施設を訪ね歩いた。

敷地の地勢に合わせて配置したボリュームと、それと咬み合う水平・垂直の板、これらを整理・統合化していくプロセスを経て、最後に大きな屋根をゆるく傾けた。

相模湾まで見通せるほどの広大な箱根の自然を、窓全開で満喫させるシンプルな建築である。

佐藤　剛





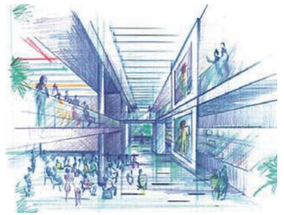






NAGOYA ELECTRICAL EDUCATIONAL FOUNDATION JUNNA MEMORIAL HALL
名古屋電気学園 淳和記念館

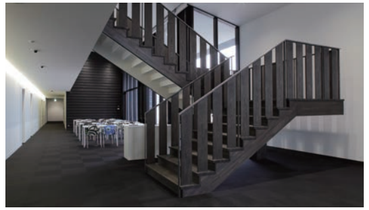
見せる「モノづくり」実習室と「記念館」



「学園の歴史」「教育の歴史」「部活動」といった創立100周年の歴史を保存しながら展示できる『メモリアルギャラリー』と、ブラスバンドの合奏室としても利用できる記念小ホールを併設。又、この地にあった「愛名館」(体育館)、モノづくりを教える機械電気・材料の実習室を1つの建物としている。
「100周年の記念館らしい佇まい」という施主要望より、オリーブグリーンの石のBOXを記念館の宝箱として見立て、モノづくりを行う実習室の箱と記念の箱が共存する建物としている。
モノが作られていくプロセスを、回廊を歩くことでわかるよう実習室を配置し、外からも見える構成としている。床のPC版・ダクト・配管・電気配線を系統別に色分けし、その表現が教材となるようにしている。
アトリウムを介した1・2階の中央には、廊下も教室も一体となって授業ができるオープンラボを設け、「ロボット博」の会場や、先生と生徒が自由に授業形態を工夫できる「しかけ」を作った。

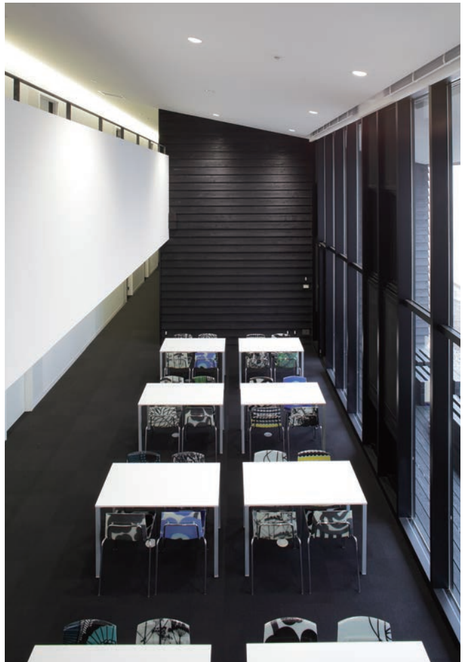
加登　剛司







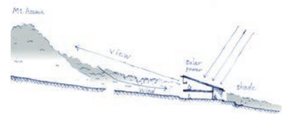




WASEDA UNIVERSITY KARUIZAWA SEMINAR HOUSE

早稲田大学軽井沢セミナーハウス

自然とのかかわり



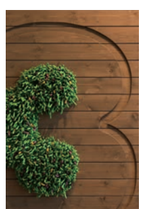
長野県軽井沢町にあり、北側に雄大な浅間山を望む山の麓に建つ大学のセミナーハウスである。
山岳地特有の厳しい気候条件や、複雑に傾斜した地盤レベル等の立地条件といった、軽井沢の自然環境との関わり方を模索することが本計画の設計のプロセスであった。

北側には、浅間山への眺望と北東から吹く穏やかな風を取り込む大きな開口部を全面設けた。南側に対しては大きく伸びる屋根によって直射日光を遮りながらも、南に広がる自然を眺めるピロティが学生の休息の場所となっている。
また南面の直射日光を活用する太陽光発電システム・太陽光集熱機器によって自然エネルギーの活用を図っている。

岡山　英樹













KYOBASHI KODOMOEN
中央区立京橋こども園

都会のオアシス



保育所と幼稚園の機能が一体化した認可保育所と一時預かり施設を併設する認定こども園である。この施設は清水建設本社の都市再生特区内における社会貢献施設として区の待機児童解消の一翼を担っている。

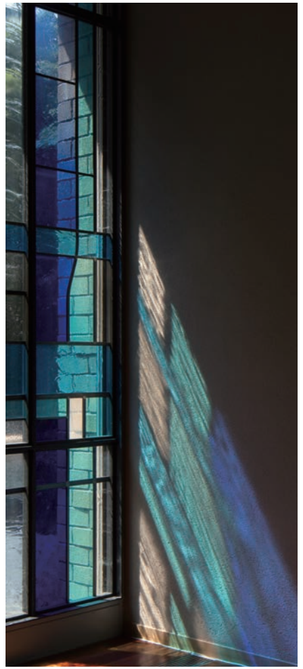
「緑豊かな都市環境をつくる」
都の「緑の東京10年プロジェクト」推進に倣って大規模な緑化を施し、美しい景観形成を図ると共に、緑に包まれた子供のオアシス空間となるよう、緑化壁に囲まれたガラス箱の建物構成とした。

「地域を守る」
2階の防災広場や区の防災倉庫等を設置し、事業所の多い地域の災害時支援機能も併せ持たせた。

「色と形で子供の豊かな感性を育てる」
子供の脳の成長に重要な色の刺激や年齢の異なる子供との交流を促すため、壁を硝子や引戸とし、木をベースにカラフルな色使いと楽しい形で構成された開放的な空間づくりを行った。

藤田　聡
岡嶋　亜都夫











SALESIAN SISTERS ST.JOSEPH MONASTERY

カトリック扶助者聖母会 調布ヨセフ修道院

祈りの家



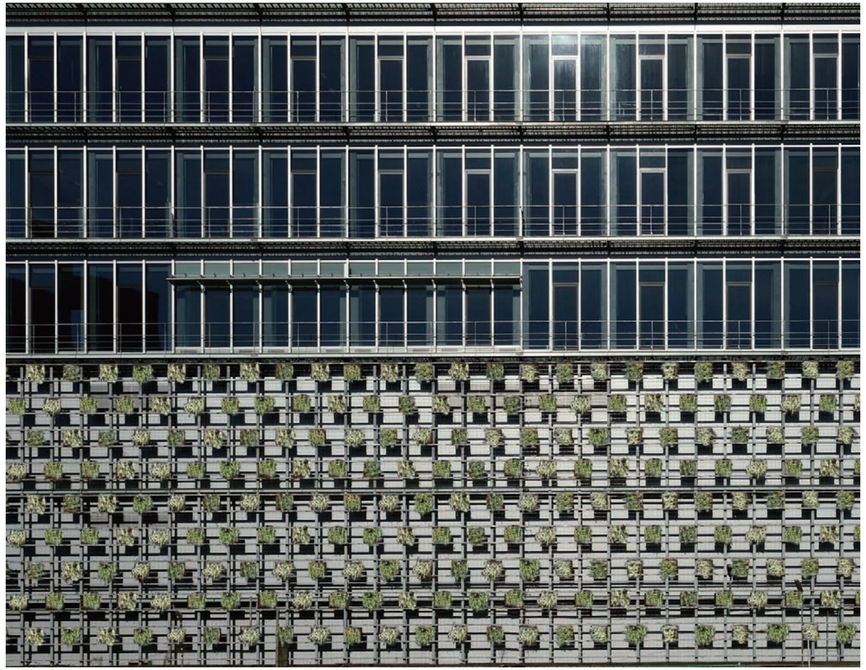
カトリック扶助者聖母会の日本管区本部機構を併設する修道院である。

シスターたちの生活の中心である祈りの場「聖堂」は、スタディー模型を地面に方位を合わせて置き、太陽光の入射角度を時間ごとに確認し、柱のピッチ、窓形状の検討プロセスを繰り返し、決定した。マリア様を象徴するブルーを基調としたステンドグラスからは、季節ごと、時間ごとに日の入り方が変わり、常に新鮮な気持ちで祈ることができる。

100年仕様のコンクリート、炻器質タイルの外壁、銅版葺き屋根等、これまで蓄積してきた100年建築の集大成としてまとめ、丁寧な施工で長寿命建築を実現した。失敗の許されない勾配45度の屋根のコンクリート打ちは、困難を極めた。聖堂内部に直接現れる本実型枠打ち放しコンクリートは、綺麗に打つための検討を設計者、施工者で繰返し、棟と中間レベルの2か所から同時にコンクリートを流し込み、きれいに仕上がるよう祈りを込めて打ち上げた。

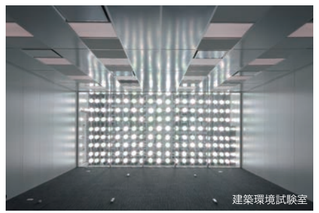
戸塚　祐造

多目的実験棟





ZEBソリューションラボ

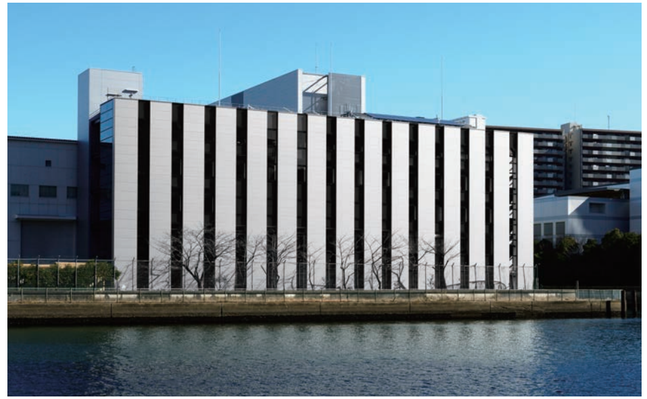


建築環境試験室



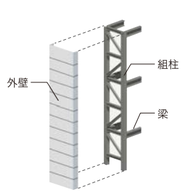
一対比較試験室

材料実験棟

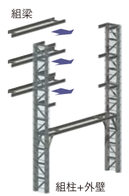




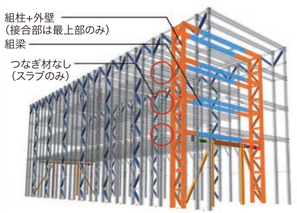
鉄骨・外壁アセンブリー工法



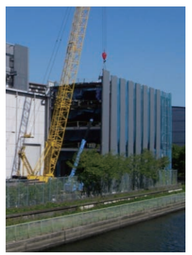
組柱と外壁を事前に組立



組柱+外壁を建方後、組梁を設置



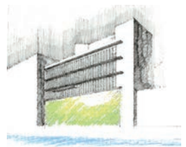
全体構造架構



SHIMIZU INSTITUTE OF TECHNOLOGY MULTIPURPOSE TESTING LABORATORY/ MATERIAL LABOLATORY

清水建設株式会社 技術研究所 多目的実験棟/材料実験棟

ものづくりをカタチにした佇まい



多目的実験棟
次世代の環境建築に向けた、エネルギー制御やZEB関連技術の研究開発拠点である。
異なる外装の省エネルギー性能を検証可能な一対比較試験室、ZEB化に向けた設備技術の評価検証を行うZEBソリューションラボ、人工気象環境下で新たな空調・照明設備の開発を行う建築環境試験室を備え、最先端の設備技術の評価検証が可能である。ファサードは、それ自体が実験装置であるカーテンウォールと、壁面緑化の2トーンのデザインにより、ものづくり×環境という建築プログラムをシンプルに表現した。

材料実験棟
高機能・サステナブル材料の研究開発拠点である。既存建屋と護岸に近接した、都心の狭小地を想起させるような敷地に対し、「鉄骨・外壁アセンブリー工法」を考案した。外壁と一体ピース化された組柱は、メガフレームとして耐震要素も担う。施工計画まで視野にいれた設計プロセスによる「つくり方をカタチに」した計画は、結果的に近年の逼迫する労務の削減にもつながった。60日の工期短縮は新しい建築生産モデルの象徴である。

半田　宜之
小前　健太郎



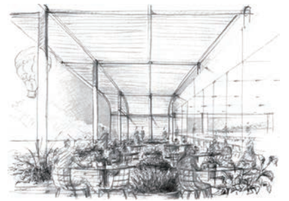






LIVEDO CORPORATION
EHIME NIHAMA FACTORY
リブドゥコーポレーション愛媛新居浜工場

２重外壁による医療品集約工場

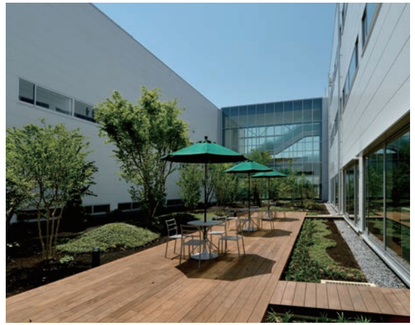


手術に必要な医療材料をコンパクトにまとめたキットの生産を行う工場の新設計画である。

四国の折り重なる山並みのイメージを、工場のスカイラインで表現した。4つのスカイラインは内部の天井高さと天井裏の設備スペースに応じて設定している。また平面形状も敷地形状に合わせて雁行させることによって、ボリューム感を軽減し、周辺民家への圧迫感を回避するよう配慮した。
西側の外壁には、日除けルーバーとしてファインフロアを用い、空調負荷を約36%軽減している。またこのルーバーは意匠的には、手術用キットを包む不織布をイメージした。
南北の2重外壁は、止水ラインであるALCと、その外側の折板によって構成されている。南側の折板とALCの隙間から給気を行い、北側の隙間から排気するシステムとした。
眺望のよい南側には食堂とテラスを計画し、憩いの場を提供している。またエントランスには障碍者によるアートを展示し、医療に関わる企業姿勢と、社員に対する癒しに寄与している。

林　弘之



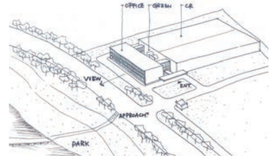






TOKYO ELECTRON
Technology Center Tsukuba
東京エレクトロン　テクノロジーセンターつくば

自然を身近に感じる創造拠点



東京エレクトロンにおける次世代技術の開発拠点の計画。
敷地は85年のつくば万博の跡地に整備された工業団地の一角に位置し、正面道路を挟んで広大な公園が広がっている。この豊かな周辺環境を最大限活用し、四季の移ろい、自然の息吹が感じられるような建築を目指した。

公園側に配置したオフィス棟をクリーンルーム棟から分離し、2棟を緑とガラスボックスでつなぐことにより、豊かな環境を最大限に取り込んだ、解放的なワークスペースを実現した。

約13,000㎡のクリーンルームを7か月の工期で引き渡す必要があったが、施工計画と一体となった設計プロセスにより、無事完工することができた。
特にクリーンルームでは、天井の不要な当社特許技術のタスク&アンビエントクリーン空調を導入し、建築・設備のミニマム化を実現した。

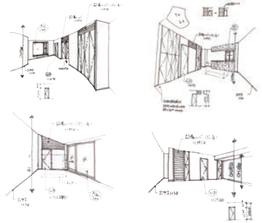
ここで生み出される最先端技術が、次世代の世界標準となっていくことを期待している。

白戸　義則
大橋　一智

第26回茨城建築文化賞入選

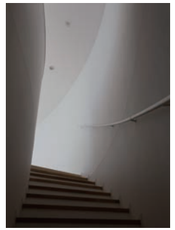
Case

イマジネーションを萌芽させる住まい











6住戸17パターンの間取り

計画地は都心の高級住宅地、渋谷区神山町の閑静な住宅街の一角にある。
建物はアルミメッシュの外皮に覆われた6戸の集合住宅である。軽やかに住まいを守る役割を担う外皮にはアルミエキスパンドメタルを採用し、メンテナンス性や更新性を考慮した取外し可能なディティールとし、実大モックアップの製作により、早い段階から安全性、機能性を含めた検証を重ねた。
スキップフロアとなる断面構成では、周辺住宅や隣り合う（重なり合う）住戸に配慮した上で最適な住空間がどのようなものかを試行錯誤した。
曲面RC壁によってゆるやかに分節され、やわらかくシェアされた壁面によってできた非整形な内部空間が、結果的に住まい手の感性に訴え、想像力を掻き立てる空間を目指した。
軽やかな建築表現の中に、高級分譲住宅に求められる、ハイレベルな品質確保のための丁寧なプロセスを経てこの建築は完成した。

三上　哲也



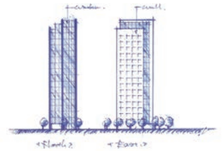






PARK TOWER SHIBAKOEN
パークタワー芝公園

必然性により創られた住まいのあり方



600年以上の歴史を持つ芝、増上寺。その南に位置し、門前町として歴史と文化が育まれた本敷地は、現在都市機能の中心地としての側面も併せ持つ。
この恵まれた環境を最大限に享受する住宅を創造すること、周辺環境の更なる向上に貢献すること、以上を命題としてプロジェクトは進められた。

平面計画はスリムな形状とし、接道側に広い空地を確保した。これにより都市の安全性を高めると共に憩いの場を提供している。

スリムなフォルムはガラスファサードとの相乗効果により、北に位置する「増上寺」「芝公園」に対して圧迫感を軽減し、歴史的景観の維持に寄与している。
又ガラスファサードは各住戸に優れた眺望を与え、住空間の向上にも貢献している。
都市機能が集中する東西エリアに対しては、整然としたグリッドデザインで構成し生活感を排除した。
これにより都心環境に適応させると共に、住戸のプライバシーを確保している。

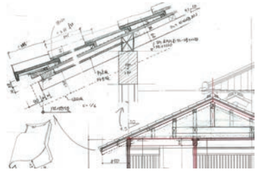
「都市環境との対話」から得た「必然性」こそが、本プロジェクトにおける軸であったと考える。

2013年グッドデザイン賞　　中村　新

THE RECONSTRUCTION OF SHIMIZU YOUNOSUKE HOUSE

旧清水邸(清水揚之助邸)書院復元

100年の時を超え、甦る清水家住宅



旧清水邸書院は、明治43年頃、台東区中根岸に清水揚之助(清水組元副社長)邸の離れとして新築、大正8年世田谷区瀬田に移築、昭和54年に解体、部材は保管されていた。新設の二子玉川公園に、現行法規を遵守しながら、保管部材を再利用し、古写真を基に、現代の匠の技を積み重ねるプロセスを経て、100年前の意匠を再現。竣工後、世田谷区登録有形文化財に指定された。

外観の特徴である軽やかさを再現するため、縁下を石の上に直に柱を建てる「石場立て」とし、下見板壁の内側に土台と布基礎を隠し、耐震壁を各所に設け小屋裏にて水平構面をめぐらせ耐震性を確保した。

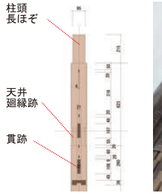
化粧材は希少価値の「日本栂」が主である。残存率6割の保管部材と、補足した4割の新材との調和にも注力。新材を旧材のように見せる「古色付け」では理想的な色合いが出るまで試行錯誤を繰り返した。

復元のポイントであった金襖、書院欄間、照明器具は、古写真や大正期の資料より意匠・構法の検討を重ね復元、書院としてのオリジナリティを保つことに成功した。

関　雅也
柿澤　英之







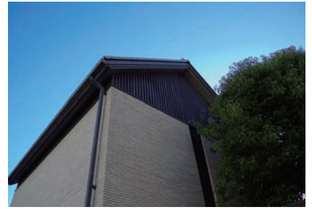


保管部材より各部位の構成を復元



再生可能な古材は全て使用







Z TEMPLE PRIVATE LIBRARY

Z寺　経蔵

ひかりにうかぶ　蔵



4mx4m

書物に囲まれた極小スペース。この建築は、ちいさなちいさな、このスペースのために計画された。

歴代のご住職が収集した仏教書や仏具を収める経蔵である。外観は寺院にふさわしい重厚さが求められる一方で、内部は狭さを感じさせない明るい空間づくりが求められた。

伝統的な蔵の形態だが、外壁は手仕事の痕跡の残るタイル、化粧格子は耐久性のあるリン酸処理のスチールとし、手仕事の痕跡が残る深みのある現代的な素材で構成した。

内部は4m×4mしかない空間の中央を吹抜とし、光る回廊や階段を浮かべ、上部からは杉の木格子の間を通して自然の光が差し込むようにし、広さと明るさを感じるよう意図した。

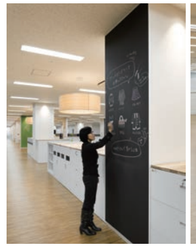
素材と伝統、そして新しさ。伝統的な蔵を現代風に解釈し、古くてあたらしいイメージの蔵である。

池内　匠
吉川　桃子





ニッセン本社の施主商品のダイニングテーブルを改造した執務テーブル





既存店舗エスカレーターや柱をいかしたコミュニケーションエリア



ぽっぽ町田を商店街から見る





商店街の歴史を刻んだ間伐材ベンチ、木材供給NPOのメンテナンスと共に、毎年歴史を刻むイベントを行い森と街、未来を繋げる

POPPO MACHIDA & NISSEN OFFICE

ぽっぽ町田活性化プロジェクトとニッセン本社

「みんなでつくる！」



チームの編成に特徴がある2つのリニューアル案件。

ぽっぽ町田は第三セクターの施設再編成にともなう、別棟カフェの建設と広場・既存店舗部分のリニューアル。建築・広場の設計を関連会社ピーデーシステムとフィールドフォーデザインオフィスが共同企業体を組み行い、同時にCIの変更に伴うVI（ビジュアルアイデンティティー）、ロゴ、販促物の監修デザインを行うことで、建築を超えてトータルな環境創りを行った。またNPO「ますほ里山暮らしを学ぶ会」の協力により間伐材の利用をおこない、イベントを誘発するデザインにより森と街との繋がりを創った。

ニッセン本社は京都駅前の商業施設の店舗とホール部分の既存を活かしたオフィスへのコンバージョン。施主の家具企画製作チームとの共同で施主商品の利用や新規家具開発を行い、オフィスに展開した。

大久保　敏之
藤井　誠
赤澤　知也



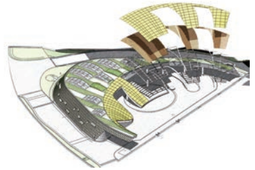
NORTH SIDE ENTRANCE / 北側 エントランス

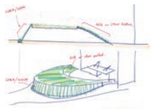


RECEPTION LOBBY / 受付ロビー

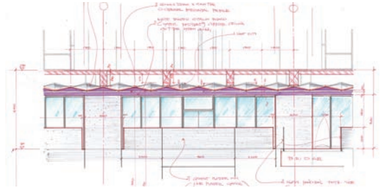


SOUTH SIDE VIEW / 南側 ビュー





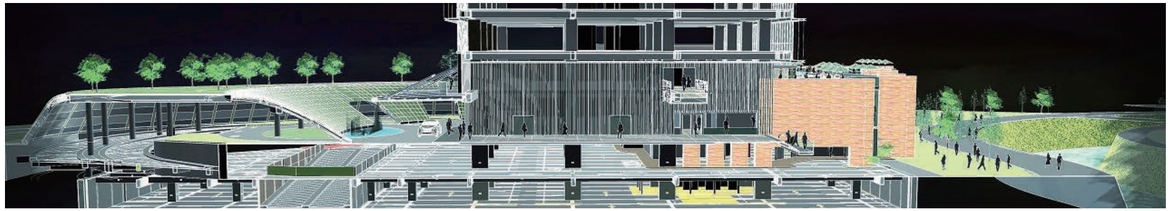
EXTERIOR GREEN ROOF / 外部緑化屋根



DESIGN SKETCH / デザインスケッチ



ORIGAMI STUDY FOR CEILING / 天井折り紙スタディ

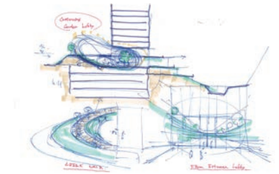




SIMA IZZAR MIXED USE PROJECT

ジャカルタ シマトパン 複合事務所ビル

海外大型オフィスビル設計施工案件への挑戦



インドネシア現地クライアントによる商業施設を含む31階建ての大型事務所ビルである。

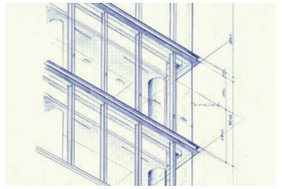
川を挟んだコンドミニアムも含む一体開発に企画設計段階から参画し、個人オーナー特有のスピード感と沸騰するジャカルタの熱気にせかされるかのように基本設計、実施設計へと走り続けた。

婉曲する3次曲面をもつ車寄せ前に配された緑の丘はインドネシアに見られるモスクの屋根建造技術により可能と考え、対岸のコンドミニアムと空間を共有する川面の商業施設はあるがままの川の流れと呼応させようとし、気候風土を肌で感じられる半屋外ロビーはまるで木漏れ陽の中を歩くかのようにしよう。

個人オーナー特有の決断の早さにこちらも当意即妙な対応が必要となる。発想はスケッチにより共感、交歓、検証されより確かな形を作っていく。クライアントと設計者とでスピード感を楽しむかのような幸福なプロセスは3Dスキルに精通する当社のローカルスタッフの賜物でもあった。

栗原　航

KAMOTSURU NIHONBASHI BUILDING
カモツル日本橋ビル
端正でミニマルな建物の探求



賀茂鶴酒造は、酒質・知名度と共に西国を代表する酒蔵である。老朽化した既存の賀茂鶴酒造東京支社を解体し、新たにテナントオフィスを建設して土地の有効利用することが求められた。
計画のテーマは、雑味の無い澄んだ良質の酒を求める賀茂鶴酒造の酒づくり職人の精神性に通じるような建築をつくり、テナントオフィスとして高レンタブルかつ使い勝手の良い合理的なオフィス空間の確保すること。そして、建築表現においては、ミニマルで透明感のある建物を目指した。
また、設計プロセスにおいては、デジタルモックアップとスケッチによる入念なディテールの検証を重ねることにより目指すイメージを純粋に表現する作業を徹底して行った。若手主体の設計メンバーが一丸となって愚直で地道に設計行為を積み重ねて施主との合意形成を図り、施主の満足度とテナントオフィスとしての付加価値を高めることが出来たと感じている。

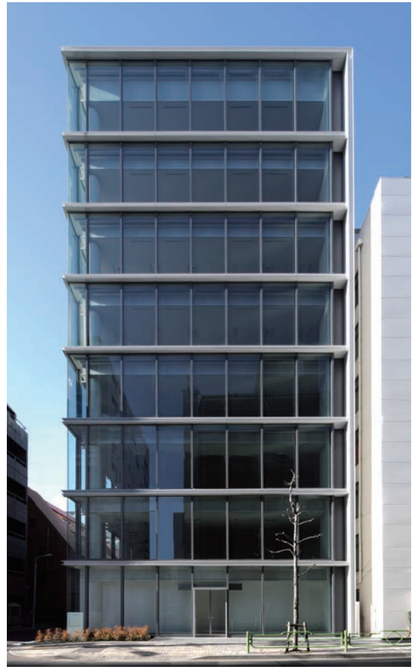
山本 武





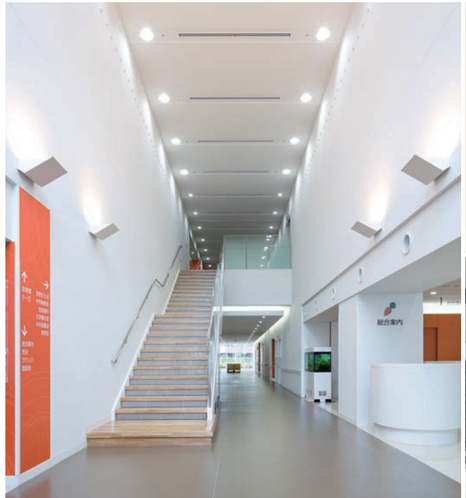

意匠:山本 武　構造:庄司 裕明　設備:染谷 孟行　電気:加藤 勇樹

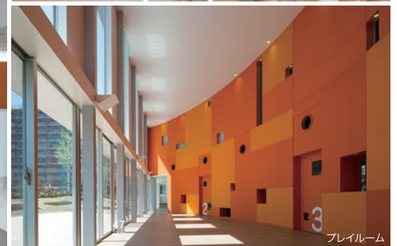




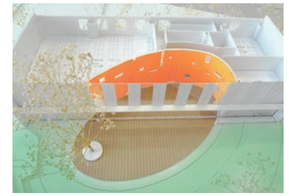




プレイルーム

FUNABADSHI GENERAL HOSPITAL
船橋総合病院
元気のでる病院



新船橋駅前のニュータウンに移転した地域の中核を担う総合病院である。「にんじん」という馴染みある野菜をモチーフテーマに掲げ、明るく健康的で親しみやすい病院を目指している。
この思想を体現する為に、キャロットオレンジの元気で明るい色彩を病院の随所に散りばめた。視認性が高いこの色はサインとしての視認効果も高く、床のアクセントや壁面のサインをたどるだけで目的地まで誘導するウェイファインディング効果も果たした。
併設する職員専用託児所のプレイルームはカーブを描く壁面がにんじんの柔らかい形をイメージさせ、子供たちの想像力を掻き立てる。カーブの先の屋外に続くデッキを元気に走り回る子供たちの姿はこの病院の思想を目の前に広がるニュータウンの街並みに見せているに違いない。

西田 桂子





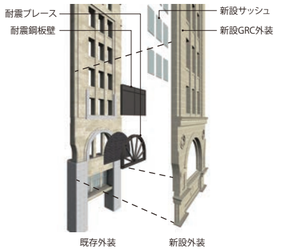
意匠:西田桂子　設備:竹島卓　電気:江田正志



EKIMISE

エキミセ（東武浅草ビル改修）

時のプロセスと現代の技術のオーバーレイ

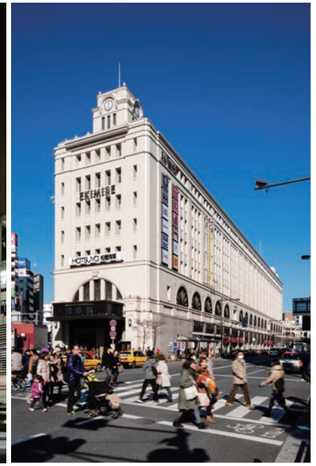


築80年を超える歴史的建築の全面的なリニューアル。駅舎機能を維持しながら、居ながら改修による耐震性能向上、外装美装化、設備更新を行い、新たな商業施設として生まれ変わった。

外装改修では、約40年前に覆われたアルミルーバーを全面撤去し、GRCカバー工法による創建時の姿の復活と、将来を見据えた外壁性能の再構築を行った。耐震ブレースを組み込み、オリジナルよりも彫の深くなった外装は、一見すると昭和初期の意匠に見える。しかし、そこには現代の建築に必要な性能を担う要素が込められている。昭和初期に浅草の街に差し込まれたネオ・ルネサンス様式の建築は、新たな技術を丁寧に重ね合わせた現代の姿として再び立ち現れ、国際観光の街として刻んできた時のプロセスを継承している。

金澤　陽一＋佐藤　剛也







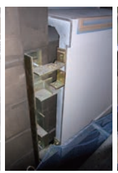
創建時（1931年）



改修前



外装再構築のプロセス　耐震ブレース



GRCカバー工法取付状態



メダリオン型起こし

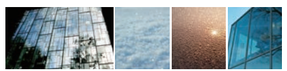


時計塔盤面



AIP28
2013 ARCHITECTURE IN PERSPECTIVE
Award of Exellence

Study-01 / 渡邉　美土里



ガラスの表情がパースの中で重要なポイントになると考え、建築におけるガラスらしさの追求をテーマに制作した。自主制作のパースは絵画制作のプロセスを経て制作するため、日常業務のパース制作よりも画面構成力、細部の描写が必要になる。雪、結露等の質感を表現したい部分はペンタブレットを使用し細部の描きこみを行い、臨場感あふれる画面になるよう心がけた。

AIP28
2013 ARCHITECTURE IN PERSPECTIVE
Award of Exellence

The Daydream（白昼夢）/ 里　悦子



タイトルに合わせ、非現実的で幻想的な空間をテーマに制作を進めた。手前の美しいモスク風建築の背景には上部に崩れかけた現代の建物、下部に古代遺跡を朧げに見せている。光と影を使い分け、静けさの中の強い意志を中央から広がる光で表現した。
ある国のモスクをモチーフにした手前の建物はタイルの模様や細部のディテールにこだわって造り



CG VISUALIZATION

ASAI（アメリカ建築イラストレーション協会）主催
国際建築パースコンペAIP28 入賞

パース表現の探求



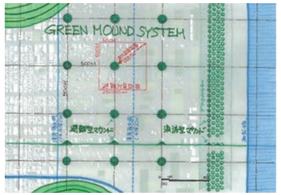
ASAI（アメリカ建築イラストレーション協会）主催の建築パース国際コンペ、AIP28（Architecture In Perspective28）で応募総数約400点の中からプレゼンテーションセンター所属2名の作品が「AWARD OF EXELENCE」に選ばれた。

AIPは今年で28回を数える最も権威ある建築パースの国際コンペティションである。毎年、海外の著名な建築家、評論家、大学教授、デザイナー等が審査員を務め、世界各国の応募の中から優れた作品が選定される。このコンペの入選作品はアメリカをはじめとする世界各国の展覧会を巡回し作品集にも掲載される。

応募した作品は自己啓発のために習作として制作したもので、高度な表現技術と訴求力のある表現で、海外のレンダラーから評価を得た。

GREEN MOUND
グリーンマウンド

津波被害を軽減する都市システム



グリーンマウンドは、シンプルな円錐台の丘（被災廃棄物活用）を津波の緩衝帯や地域住民の避難場所として利用する都市システムである。

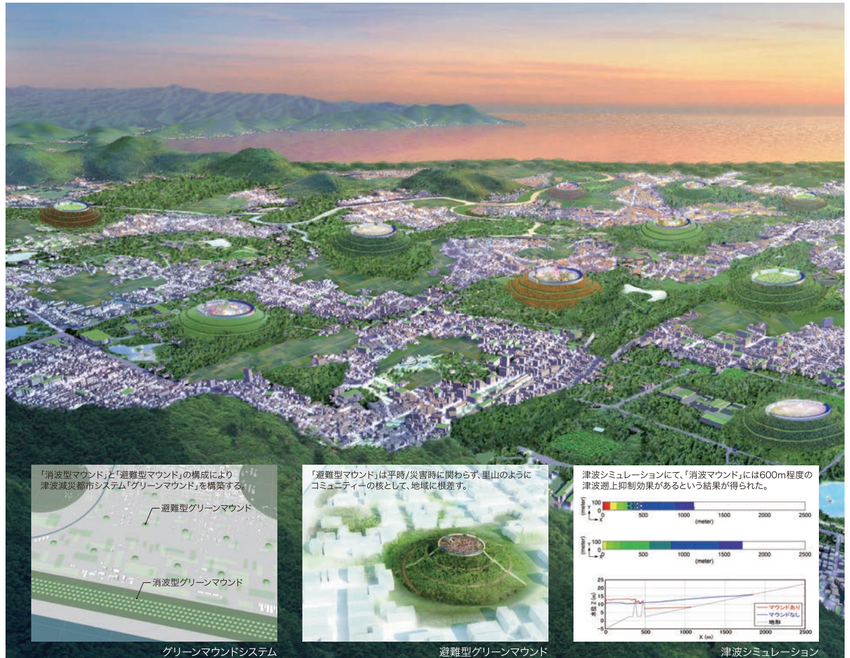
海岸線のグリーンベルト内などに千鳥状に配置する「消波型マウンド」が津波のエネルギーを吸収し、津波の遡上を抑制する。加えて、津波浸水域の住民の避難場所として一定間隔で「避難型マウンド」を配置することで、海岸域の魅力を生活に活かしながら津波減災を可能にする。

グリーンマウンド考案の原点には、水流を制御する「聖牛」や「堤」、避難の丘となる「日和山」などの先人の「いなしの知恵」がある。最先端技術、奇抜な形態、自然の支配など、「近代のデザイン」が陥りやすい傲慢を自問自答しながら、1000年後の子供たちへのデザインを模索したグリーンマウンドは、いい機会であった。

秋江　康弘
宮前　和也

「東日本大震災復興プラン国際提案競技」優秀賞受賞

環境調和型津波減災都市「グリーンマウンド」



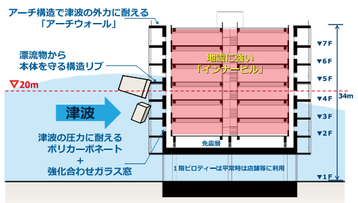
ARCH SHELTER
アーチ・シェルター

耐震性、耐波性に優れた津波避難ビル



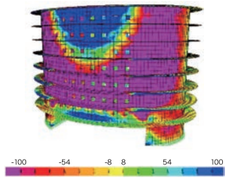
「アーチ・シェルター」は震度7クラスの大地震や波高20mクラスの大津波に耐え、人命と資産を守り、事業継続を可能とする津波避難・BCPビルである。大地震発生時に免震構造の建物「インナービル」が地震力をかわし、建物を取り囲む外郭「アーチウォール」が地震に続く津波の外力に対抗するハイブリッド構造を採用している。「アーチウォール」は、極めて大きな津波外力に効率よく抵抗するため、アーチダムを参考に、外郭に平面的に楕円形状で、外周フィンが付いたRC曲面壁構造を採用しており、剛性・耐力を高めるとともに、漂流物の衝突から建物を守り、避難バルコニーとしても機能する。また、低層部はピロティとして、津波を通過させ流水圧を軽減する。

町井　章





模型実験とシミュレーション検証

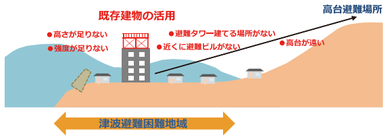


外殻シェル等の応力分布例t/m



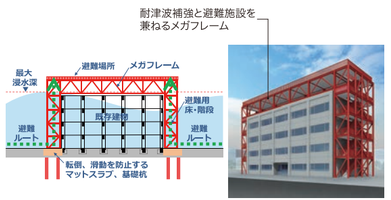
FRAME SHELTER
フレーム・シェルター

既存建物の津波避難ビル化



高台避難が困難な地域で、近くに避難ビルを新築する用地がない場合、既存建物を活用し避難ビル化とする案が考えられる。フレーム・シェルターは、既存建物の周囲をメガフレームで囲み、津波に対する構造補強を行うと同時に避難場所を確保するものである。フレーム・シェルターは、建物周囲を囲むメガフレームとメガフレームの転倒や滑動を防止するマットスラブ、基礎杭等から構成される。建物両脇のメガフレーム内には、避難用の床と階段を設け、建物上部のメガフレーム上に、津波高さを超える位置に避難施設を設ける。

川端　泰造



発生が危惧されている南海トラフ巨大地震では、津波到来までの予想時間が比較的短い地域が多い。
人命を守るため、短時間で避難できる施設の整備が喫緊の課題である。

津波避難ビルの開発
アーチ・シェルター
フレーム・シェルター

COMPETITION

2013年度日本建築学会技術部門設計競技：
「田老結 －海と向き合い、住みつなぐまち－」 優秀賞

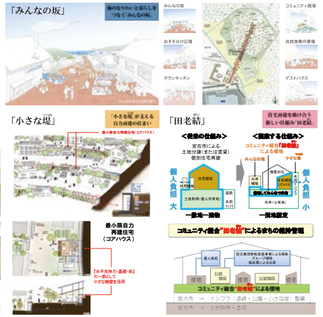
農村計画委員会の主催で「次世代に継ぐ住宅の再建計画ー東日本大震災からの復興」というテーマが与えられ、具体的な被災地を特定し、現地の地域調査に基づく自力で生活再建する住宅提案が求められた。
我々は、津波被災地である岩手県宮古市田老地区を計画地とし、なりわいの場である港と住まいを分断しないよう、3つの要素で構成するシステムを提案した。主動線の坂に共用施設がある斜面地住宅、擁壁を利用したインフラ・住宅整備による自立可能な住まい、戸建住宅群を一団地としたまちづくりとファイナンスによって住宅再建を助け合う相互扶助組合という、建築・土木一体の仕組みである。 （金子 弘幸 リーダー）

金子弘幸、山本茂、平出水昭子、齋藤宏一、青木駿亮、
牧佳敏幸、西川航太、毛利圭介、正藤倫宏、吉田正明、
水島一彦、山田邦夫、町井章、吉田郁夫、
金子淳（投資開発本部）、栃山広幸（土木事業本部）

「田老結（ゆい）」 ～海と向きあい、住みつなぐまち

田老では、これまで自然から自分たちを守ってくれる「大きな堤防」をみんなの誇りにしてきた。
これからは、海を望み、自然を生かしたまちを、みんなでつくりあげていくための、「小さな堤」も誇りとしていく。
避難の象徴であった坂は、「みんなの坂」として、生活の基盤となり、住宅機能の延長の場、人の集まる場となり、
「田老結」という仕組みが、個人所有と共同所有そのものを、生活や幸せの概念の根本から見直していく。
そして、まちそのものが大きな家のように、次の世代に住みつながれていく。



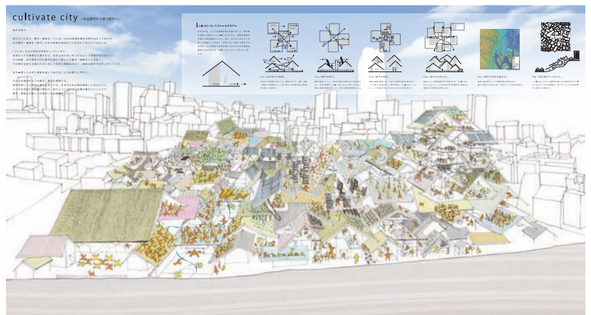


COMPETITION

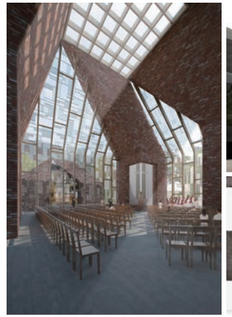
2012年度第26回建築環境デザインコンペティション
「cultivate city」 佳作賞

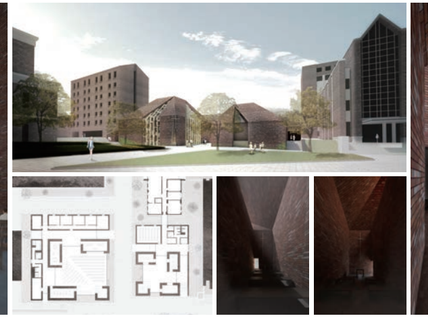
2012年度の課題は「地球環境に住む建築作法」。
我々はこれまで、都市・建築を「つくる」ための技術を高める努力は行ってきたが、その都市・建築を「使う」ための技術を高めていくことには力を注いでこなかった。「つくる」ための技術が高度化していく中で、技術は人々の感覚から遠ざかり、状況と折り合いをつけるという感覚が失われていく。その結果、ある想定を超える使われ方に対して非常に柔軟性がなく、脆弱な都市が出来上がっている。
我々は、「都市を耕す-Cultivate City-」ことを現代にふさわしい建築作法として掲げ、大きな地形のような都市・建築を提案した。人々は、地形を耕して心地良い場所を作ったり、生きるための場を確保してきたように、主体的にその場に関わり、新たにコンテクストを積み重ねていくことで、都市・建築との新しい交感のしかたを発見していく。 （清水 壮輔）

清水壮輔、正田彩、杉浦雄大、
田邊美弥、長澤怜、渡邉美土里











CHAPEL COMPLEX DESIGN COMPETITION AT DOSHISHA UNIVERSITY KYOTANABE CAMPUS

同志社大学京田辺キャンパス 礼拝堂および関連施設設計提案競技 優秀賞

2012年10月の国際コンペにて最終5作品に選出された応募作品。同志社大学京田辺キャンパスに礼拝堂及び関連施設の2棟を計画し、純粋に建物のコンセプト・デザインを問い、最優秀賞受賞者は実施、監理まで行う設計競技である。最終5作品については公開2次審査を現地にて行った。
本大学は日本にあるプロテスタント系の学校法人としては最大級の学生数を誇る大学であるが、少子化へと向かい萎縮する社会の中で次世代の若者に何を伝えるための礼拝堂なのか、そして礼拝堂が建つことで、キャンパスにどのような変化を期待するのか。この問いを最後まで考え、建築として表現することに注力した。「矩形の井戸」は堅剛な4本の躯体により生み出される光の空洞であり、集合の形態をストレートに視覚化した礼拝堂である。

水島 一彦　大栁 聡　橋川 雅史　朴 敬熙





コンペ時のイメージパース



実寸展示

SPACE DESIGN COMPETITION IN TOKYO DESIGNERS WEEK

空間デザインコンペティション「THE PRESEN - 憧れの女子部屋 -」 Grand Prix 受賞

2013年7月に行われたアイデアコンペの最優秀賞受賞作品。Tokyo Designers Weekと連動したコンペで、3次審査を経て残った最終2案をTokyo Designers Weekにて実寸展示を行った。
与えられたテーマは若い女性を想定したワンルーム空間でタイトルは「憧れの女子部屋」。
現代の女性の一人暮らしにおいて、日常的な煩わしさが表出しない非日常の空間と、毎日のオシャレを楽しむ日常の空間を1つの空間の中で表現することを目指した。
実寸展示では、コンペ時のコンセプトをさらに昇華させるために、壁面に使用するアクリルドット加工のパターンを徹底して追求し、ファッションブランドとコラボレーションするなど、展示空間の新しい見せ方を試みた。

瀧澤 祐介　中山 晴貴　長澤 怜

stream DEW WORKS

stream DEW委員会では、メンバーの自由かつ主体的な提案によりワークショップ、建築の視察、展示会やドキュメントの作成など様々な活動を行っている。

2010年度 ツリーハウスワークショップ

stream DEW・清水建設北海道支店・北海道大学の産学協働プロジェクトとして、企画・設計・建設を一貫して行うワークショップを実施した。北海道大学構内や札幌芸術の森に、学生や一般参加の子供たちと共にツリーハウスを製作した。



2011年度 清水建設建築作品展「stream DEW 2011」

当社東京木工場に建築作品展「stream DEW」を開催した。当社が携わってきた建物に関する展示に加え、設計者による建築作品説明会、社内設計コンペの公開2次審査、東京木工場見学ツアーも行われた。





2012年度 コンテナ展「東京万華鏡」

東京デザイナーズウィークのコンテナ展へ出展した。
東京という都市を無限に広がる万華鏡の手法を用いて表現。その中にこれまで清水建設が生み出した建築が、人々の生活に溶け込み、どのようなワンシーンを描いているのかを示す写真を展示した。

2013年 DSA 空間デザイン優秀賞







stream DEW委員一同

2013年度 清水建設建築作品展「ものづくりの風景」

街の中にある建築物には街の人、建物の持ち主、設計者、施工者…多くの人の「気持ち」が込められている。その「気持ち」が形になるとはどのようなプロセスを経るのか？清水建設の建築作品展を通じて建物がつくられるストーリーを伝える。



DEW定例ミーティング風景



展示コンテンツ検討風景



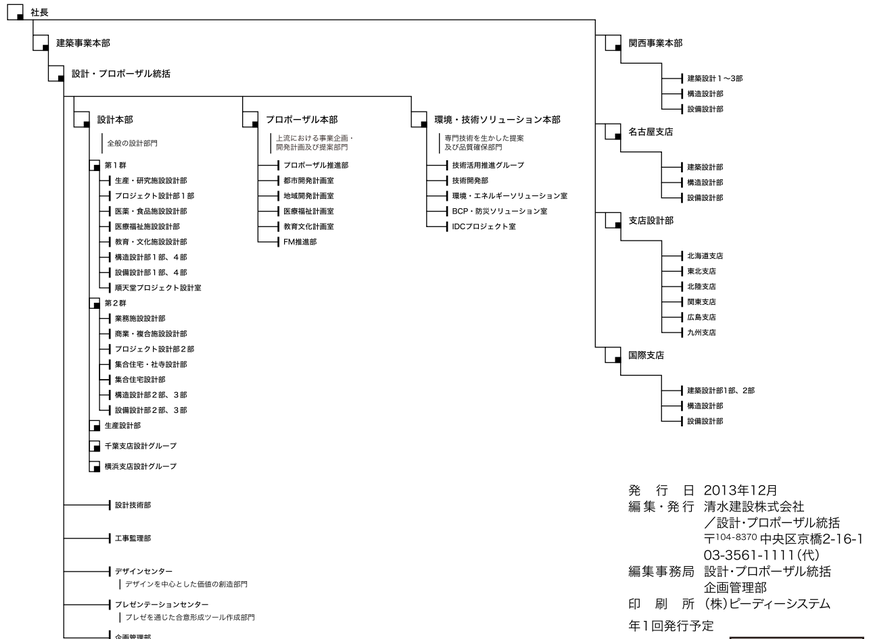
会場イメージパース

委員長		井川　博英
副委員長		今井　宏
委員		大石　裕也
		清水　壮輔
		五十嵐　理人
		竹内　圭佑
		石川　慎一郎
		三宅　光明
		中野　舞
		瀬尾　剛史
		吉川　桃子
		中山　晴貴
		竹内　信一郎
		伊藤　統
		佐藤　実季
		濱　久貴
		王　富江
		渡辺　俊一
		黒瀬　恭介
		梅澤　力
		黒木　春奈
事務局		吉田　郁夫




JR中央線
JR青梅線
JR五日市線
JR八高線
JR川越線
JR武蔵野線
JR南武線
JR横浜線
JR相模線
JR横須賀線
JR東海道本線
JR伊東線
JR東海道新幹線
JR中央本線
JR身延線
JR御殿場

全国設計・プロポーザル系組織図　(2013.12 月現在)



発　行　日　2013年12月
編集・発行　清水建設株式会社
／設計・プロポーザル統括
〒104-8370 中央区京橋2-16-1
03-3561-1111(代)
編集事務局　設計・プロポーザル統括
企画管理部
印　刷　所　(株)ピーディーシステム
年1回発行予定

非売品